

## Ⅱ 事業の概況

### 1. 指導事業

#### (1) 営農指導

管内の農業を取り巻く状況は、農業従事者の高齢化による遊休農地の増加、有害鳥獣被害による生産意欲の減退等、益々深刻化しています。

このような状況の中、管内農業の維持・振興を図るため、平成27年度も出向く営農指導を重要項目とし園地巡回を実施し、農業経営支援を図りました。

また、農作物被害防止に向けた有害鳥獣駆除を行政、伊東わなの会、熱海ワナの会、猟友会の協力のもと年間を通じて実施しました。なお、有害鳥獣捕獲従事者に対しては、農協からの助成金と、国からの報償金が支給され、経済的負担が軽減されました。

平成27年度上期は、イノシシ捕獲数302頭・前年比180.8%、シカ捕獲数412頭・前年比143.6%となりましたが、下期は里へ降りてくる個体数が若干減り、イノシシ捕獲数215頭・前年比90.0%、シカ捕獲数236頭・前年比97.5%となりました。引き続き、関係機関と協力し被害軽減に努めます。

#### ① 柑橘

管内青島温州は、7月上旬の日照不足・多雨により低糖・低酸傾向にはじまり、さらに9月上旬の豪雨の影響で10月1日時点での糖度は過去2番目の低さとなりましたが、10月の降水量は平年対比28.1%となったため、糖度は平年並みまで回復しました。浮き皮軽減対策としてはフィガロン乳剤散布指導などに努めましたが、11月の記録的な高温・多雨により浮き皮が発生しました。

平成26年管内全域で増加傾向であったミカンサビダニの被害も懸念されましたが、4月のカイ油散布と夏季のダニ剤のローテーションにより発生を抑えられました。平成28年春先からの予防散布を徹底するなど指導強化に努めています。

高品質みかん生産及び柑橘の振興を目的に次の項目を実施しました。

- ア. 柑橘生産者大会及び柑橘品評会を開催しました。
- イ. 青島みかんは着色促進・高品質生産を目的にフィガロン乳剤、浮皮軽減対策にセルバインの散布推進に取り組みました。
- ウ. 老木樹の改植及び耕作放棄地対策として大苗を育苗し、甘夏87本、小原紅早生111本の苗を供給しました。
- エ. 不知火を中心とした中晩柑類の夏季土壌乾燥防止、肥大促進、減酸促進、樹勢維持、有機質補給を目的に、ナギナタガヤの種子の継続供給に取り組み、本年度は50kg(約2.5ha分)を供給しました。

#### ② キウイフルーツ

レインボーレッドは、キウイかいよう病の影響を受けました。かいよう病対策として、環状剥皮は行なわず、夏季剪定を行い被害の軽減に努めました。

第25回静岡県キウイフルーツ果実品評会では、金賞に1点(県知事賞)、銅賞に2点入選しました。3年連続で金賞を受賞することが出来ました。

#### ③ いちじく

大玉果生産のため、17葉摘芯栽培を継続して推進しました。また、土壌分析結果に基づく個別肥料設計を継続実施しました。適切な施肥の実施により樹勢が強化、維持されました。

④ 花 き

生産物の品質の向上を目的に部会員による園地定期巡回を実施しました。優良品種普及に向け、田代圃場にて、ツツジ、サツキの母樹育成をはじめました。また、生産技術向上のための挿し木講習会を実施しました。

⑤ そ 菜

安全・安心・良質な農産物の提供を目指し、部会員を中心とした園地巡回と栽培講習会を開催し、情報交換を行いました。

⑥ 農業労災の労働保険事務組合

農作業中の事故の補償を受けるため、農業労災保険の加入をすすめ、平成 27 年度加入者 5 軒分の労災保険料 187,861 円を受け入れ全額納付しました。

(2) 生活文化活動

① 健康管理活動

組合員をはじめ地域住民の健康づくり支援を目的に、中伊豆温泉病院の協力を得て生活習慣病総合検診を行い 137 名が受診しました。また、受診後の結果報告会や女性部健康教室等を開催し、健康に対する意識の高揚に努めました。

② 女性部活動

「JA 女性部 3 か年計画～いっしょにやろうよ!～」実践 2 年目として以下の活動に取り組みました。

- ア. 部員家族等の食卓を安全・安心な食材で飾ることを目的とした手作り加工食品（みそ作り）運動の取り組みや、食と農が育む体験学習運動の一環として、こどもたちにブルーベリー収穫体験と手作りジャム教室を開催しました。また、青壮年部と合同でサツマイモ植え付け・収穫体験を行い、農業体験の場を提供しました。
- イ. 豊かな暮らし地域づくりを目的に、ボランティアグループによる施設援助など積極的な活動の展開や、環境を守る取り組みとして、資源ごみの回収を実施しました。
- ウ. 組織の強化や部員数の増加を目的に、女性部通信の発行、全体交流会、女性講座等の学習活動や、ウォーキングサークル育成など新たな取り組みを展開し、部員相互の交流と加入の促進を図りました。

(3) 教育情報

食農教育の一環として、JAバンク教育活動助成事業を活用し、管内の全小学校を対象とした青島みかんの贈呈並びに早生みかんの収穫体験を実施しました。

青壮年部は例年実施している農業への思いを表現した手作り看板コンクールへ 3 部門出品。アート部門で最優秀賞、環境保全部門で優秀賞を受賞しました。また、平成 27 年度は「干支（さる）をテーマとした創作門松」を制作し、いで湯っこ市場前に飾りました。

環境美化活動として、女性部及び青壮年部、JA 役職員合同で宇佐美海岸の清掃活動に取り組みました。

(4) 相談業務

顧問弁護士・顧問税理士の協力をいただきながら、移動相談室を開催しました。相続・贈与・登記・税・法律など多岐にわたり、年間 61 件の相談に対処しました。

また、青色申告会を含む所得税の確定申告（90 件）や消費税の申告（4 件）の対応も行いました。

## 2. 販売事業

---

### (1) 柑橘

静岡県内の温州みかんは、東・中部地区が表年傾向、西部地区は裏年傾向となりました。本年は、11月の記録的な高温・多雨により果実体質は弱く、浮き皮の発生が多くなり、出荷量が減少しました。青島温州の販売は、他県産の品質低下で入荷量が減少したことにより、12月の販売開始から終了までほぼ同じ単価での販売となりました。青島温州の取扱量は89.1t、前年比120.7%、販売単価は前年比142.3%となりました。

原料みかんを使用し製造した、温州みかん100%ジュース「伊豆みかん 農家のきもち」は、1ℓビンを2,857本、180mlビンを4,397本製造しました。

また、橙の取扱量は122.4tとなり、前年比116.6%、販売単価は前年比94.2%となりました。

### (2) キウイフルーツ

キウイフルーツは、かいよう病の影響を受け環状剥皮を行わなかったため、小玉傾向となりました。取扱量はレインボーレッドが4.6t、前年比45.7%、ハイワードが9.1t、前年比95.7%となりました。販売単価ではレインボーレッドが前年比106.6%、ハイワードが前年比124.5%となりました。

### (3) いちじく

いちじくは、春先から天候に恵まれ、出荷は平年並みに始まりましたが、その後の天候不順により、取扱量は31,730パック、前年比93.3%、販売単価では前年比105.7%と良好な販売となりました。

### (4) 花き

管内での小口取引が中心となりました。平成26年度に販売数量が増加した分、管内の出荷可能なサツキ・ツツジなどの規格物が減少した事や、生産数量の絶対数が少ないため、注文に対応できなかったことなどが販売数量の減少となりました。取扱量は4,247本（さつき・つつじ・ポット）、前年比75.0%となりました。販売高は、前年比84.0%となりました。

### (5) ファーマーズマーケット

毎月イベントを実施し、集客に努めましたが、いで湯っこ市場の来店者は196,436人となり、前年比99.3%に減少しました。しかし、販売高は、伊東マリンタウン店、下多賀支店の南熱海店が順調に売り上げを伸ばした結果、3億7,857万円、前年比101.4%となりました。

## 3. 購買事業

---

### (1) 購買業務

組合員・地域の皆さまへ良質で、安心、安全な商品の提供を心掛け、サービス向上に努めました。

生産資材については、種苗類、ダンボールが堅調に推移しましたが、農業従事者の高齢化や耕作放棄地の増加に伴い、肥料・農薬の供給は伸び悩み、生産資材の取り扱いが前年度を下回りました。

生活資材については、シロアリ駆除や補聴器等の代行推進が好調でしたが、購食米は消費者のお米離れ、スーパーマーケットや量販店での低価格販売等の影響で取り扱いが減少し、計画を下回りました。

購買品供給高の合計は4億2,404万円、計画比91.8%となりました。

### (2) 葬祭業務

組合員や地域の皆さまが安心してご利用いただける年中無休、24時間体制の葬儀運営に

努めました。

管内で 366 件（南熱海ホール 73 件、宇佐美ホール 62 件、伊東ホール 57 件、寺院・自宅ほか 174 件）の施行を行い、計画比 83.1%、供給高は 3 億 2,967 万円、計画比 72.4% となりました。

#### 4. 宅建事業

---

組合員の所有する資産の維持を基本として、ホームページ・インターネットや新聞等を活用し、大切な資産の運用を支援しました。

事業収入で 1,607 万円（賃貸仲介 101 件 331 万円、売買仲介 17 件 386 万円、管理料ほか 888 万円）、計画比 89.3%となりました。

#### 5. 信用事業

---

農業メインバンク・生活メインバンクとして選ばれ成長し続ける J Aバンクの実現に向けて、農家組合員との強固な関係づくりや、利用者のニーズに応じた商品・サービスを提供することで取引基盤の拡充に努めました。

地域の皆さまの利便性向上のため、伊豆山支店を改装し、リニューアルオープンしました。

貯金については、12 億 3,975 万円の増加となりましたが、計画比 98.4%で終了しました。主要取組項目の年金については、目標を上回る 1,047 件の受給口座指定をいただくことができました。

貸出金については、住宅ローンを中心に新規・借り換え推進など獲得に取り組みましたが、管内経済の低迷、人口減少等の影響により、住宅着工件数の増加もなく 20 億 1,435 万円減少、計画比 94.0%で終了しました。不良債権比率については、前年比 0.04 ポイント改善し 4.01%となりました。

#### 6. 共済事業

---

少子高齢化など、事業環境が厳しさを増すなか、3Q訪問活動（保障点検や未加入者に対する訪問活動）による保障点検や未加入者に対する訪問活動を一層強化することにより、組合員・利用者との信頼関係を構築し、仲間づくりと万全な保障提供に努めました。

長期共済は、280 億 3,066 万円の新たな契約を挙げることができました。また、701 人のニューパートナー（新たな契約者）が仲間入りいたしました。しかしながら、満期到来の増加や保障評価の異なる介護共済等の生存系にシフトしたため、期首保有高の維持はできませんでした。

自動車共済は、467 台の新契約をいただき 183 台の保有台数の増加となりました。

事務処理の迅速化や効率化による共済金の支払い日数の短縮など、「安心」と「満足」の提供にも努めました。